

主要産地における令和4年産水稲の生育状況等について 第9報 (令和4年7月22日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和4年7月22日)

道府県	区分	生育状況等		(参考)	
		育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋)	技術・防除・気象等関連公表資料(自治体、気象台等公表資料の抜粋)		
北海道		<p>【生育状況(7月15日現在)】</p> <p>(全道) 生育は平年並に進んでいる。(北海道農政部 7月22日付)</p> <p>(告知) 生育は平年並である。(告知総合振興局 7月22日付)</p> <p>(石狩) 高温傾向で生育は順調。(石狩振興局 7月22日付)</p> <p>(後志) 遅延はプラスマイナス0日。(後志総合振興局 7月22日付)</p> <p>(胆振) 生育は平年並。(胆振総合振興局 7月22日付)</p> <p>(日高) 生育は平年並であるが、一部地域では深水の影響で、茎数は平年より少ない傾向となった。(日高振興局 7月22日付)</p> <p>(渡島) 茎数は平年より少ないが、生育は平年並に進んでいる。(渡島総合振興局 7月22日付)</p> <p>(樺山) 生育は概ね平年並で推移。(樺山振興局 7月22日付)</p> <p>(上川) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(上川総合振興局 7月22日付)</p> <p>(留萌) 生育はやや早く進んでいる。(留萌振興局 7月22日付)</p> <p>(オホーツク) 高温多湿により生育は回復し、平年並となった。(オホーツク総合振興局 7月22日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>北海道地方の向こう1か月の平均気温は日本海側と太平洋側で高く、オホーツク側で平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し7月～9月】</p> <p>北海道地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報】</p> <p>北海道太平洋側は7月27日頃から、かなりの高温(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「ななつぼし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。(農林水産省 3月16日)</p> <p>(出典資料は以下同じ)</p>
	(生育)		<p>【7月20日現在】</p> <p>「つがるロマン」草丈が76.2cmで平年より6.8cm長く、株当たりの茎数は24.3本で4.0本少なく、葉齢は12.1葉で0.3葉多かった。</p> <p>「青天の霹靂」草丈が83.8cmで8.5cm長く、株当たりの茎数は23.1本で2.4本少なく、葉齢は11.0葉で0.3葉多かった。</p> <p>「まっしぐら」草丈が95.6cmで10.6cm長く、株当たりの茎数は26.2本で3.0本少なく、葉齢は12.0葉で0.4葉多く、全調査株が最終葉齢に達している。</p> <p>「はれわたり」草丈が83.3cm、株当たりの茎数は23.1本、葉齢は11.6葉であった。</p> <p>(地独) 青森県産産技術センター農林総合研究所 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報】</p> <p>東北地方は7月6日頃から、かなりの高温(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり、令和4年産も同様の傾向になるものと考えられる。</p>
青森		<p>【7月15日現在】</p> <p>・ 草丈は、+6.7～-3.0cmと概ね平年並、茎数は平年比 82～70%と平年を下回っている。</p> <p>・ 葉齢は、+0.4～-0.1葉と平年並～やや早まっている。</p> <p>・ 生育ステージは、既に幼穂形成期を迎えており、平年差-1±0日と平年並～やや早まっている。</p> <p>(岩手県農業研究センター 7月19日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「錦河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
	(生育)		<p>【7月20日現在】</p> <p>(大河原) 南部平坦の「ひとめぼれ」生育調査は、穂ばり期を迎え、出穂期が近づいている。南部平坦の「つや姫」調査は、5月上旬植えは、間もなく減数分裂期を迎える。5月下旬植えは幼穂形成期を過ぎている。西部丘陵の「ひとめぼれ」は減数分裂期が近づいている。山間高冷の「やまのしずく」は減数分裂期が近づいている。(宮城県大河原農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(仙台) (移穂栽培「ひとめぼれ」) 草丈は 72.4cm(管内平均)で概ね前年及び平年並、茎数は489本/m<sup>2</sup>(同)で、最高分けつ期を過ぎていることから前回調査より減少している。幼穂長は 52.3mm(同)となっている。幼穂の伸長は前年より遅れているが、生育のばらつきが大きく、既に減数分裂期に達しているほ場もあった。(宮城県仙台農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(美里) 草丈、茎数は平年または前年を上回った。「ひとめぼれ」、「だて正夢」の葉色は、ほぼこの時期の目安値になっている。(宮城県美里農業改良普及センター 7月21日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
岩手		<p>【7月15日現在】</p> <p>・ 草丈は、+6.7～-3.0cmと概ね平年並、茎数は平年比 82～70%と平年を下回っている。</p> <p>・ 葉齢は、+0.4～-0.1葉と平年並～やや早まっている。</p> <p>・ 生育ステージは、既に幼穂形成期を迎えており、平年差-1±0日と平年並～やや早まっている。</p> <p>(岩手県農業研究センター 7月19日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「錦河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
	(生育)		<p>【7月20日現在】</p> <p>(大河原) 南部平坦の「ひとめぼれ」生育調査は、穂ばり期を迎え、出穂期が近づいている。南部平坦の「つや姫」調査は、5月上旬植えは、間もなく減数分裂期を迎える。5月下旬植えは幼穂形成期を過ぎている。西部丘陵の「ひとめぼれ」は減数分裂期が近づいている。山間高冷の「やまのしずく」は減数分裂期が近づいている。(宮城県大河原農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(仙台) (移穂栽培「ひとめぼれ」) 草丈は 72.4cm(管内平均)で概ね前年及び平年並、茎数は489本/m<sup>2</sup>(同)で、最高分けつ期を過ぎていることから前回調査より減少している。幼穂長は 52.3mm(同)となっている。幼穂の伸長は前年より遅れているが、生育のばらつきが大きく、既に減数分裂期に達しているほ場もあった。(宮城県仙台農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(美里) 草丈、茎数は平年または前年を上回った。「ひとめぼれ」、「だて正夢」の葉色は、ほぼこの時期の目安値になっている。(宮城県美里農業改良普及センター 7月21日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
宮城		<p>【7月15日現在】</p> <p>・ 草丈は、+6.7～-3.0cmと概ね平年並、茎数は平年比 82～70%と平年を下回っている。</p> <p>・ 葉齢は、+0.4～-0.1葉と平年並～やや早まっている。</p> <p>・ 生育ステージは、既に幼穂形成期を迎えており、平年差-1±0日と平年並～やや早まっている。</p> <p>(岩手県農業研究センター 7月19日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「錦河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
	(生育)		<p>【7月20日現在】</p> <p>(大河原) 南部平坦の「ひとめぼれ」生育調査は、穂ばり期を迎え、出穂期が近づいている。南部平坦の「つや姫」調査は、5月上旬植えは、間もなく減数分裂期を迎える。5月下旬植えは幼穂形成期を過ぎている。西部丘陵の「ひとめぼれ」は減数分裂期が近づいている。山間高冷の「やまのしずく」は減数分裂期が近づいている。(宮城県大河原農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(仙台) (移穂栽培「ひとめぼれ」) 草丈は 72.4cm(管内平均)で概ね前年及び平年並、茎数は489本/m<sup>2</sup>(同)で、最高分けつ期を過ぎていることから前回調査より減少している。幼穂長は 52.3mm(同)となっている。幼穂の伸長は前年より遅れているが、生育のばらつきが大きく、既に減数分裂期に達しているほ場もあった。(宮城県仙台農業改良普及センター 7月21日付)</p> <p>(美里) 草丈、茎数は平年または前年を上回った。「ひとめぼれ」、「だて正夢」の葉色は、ほぼこの時期の目安値になっている。(宮城県美里農業改良普及センター 7月21日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
秋田		<p>【7月15日現在】</p> <p>・ 草丈は、+6.7～-3.0cmと概ね平年並、茎数は平年比 82～70%と平年を下回っている。</p> <p>・ 葉齢は、+0.4～-0.1葉と平年並～やや早まっている。</p> <p>・ 生育ステージは、既に幼穂形成期を迎えており、平年差-1±0日と平年並～やや早まっている。</p> <p>(岩手県農業研究センター 7月19日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
	(生育)		<p>【7月20日現在】</p> <p>(由利) 水稲定点調査結果(2品種・移植8か所平均)によると、草丈72.3cmで平年より長く(平年比117%)、m<sup>2</sup>あたり茎数は140本で平年より少なく(平年比93%)となった。ほとんどのほ場で幼穂形成期に入っている。(7月22日付)</p> <p>(雄勝) 幼穂形成期を迎え、周回水管理と畦畔雑草などの防除が進められている。(7月15日付)</p> <p>(秋田県農林水産部)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形		<p>【7月15日現在】</p> <p>・ 平年比「はえぬき」の生育は、平年に比べ、草丈は長く、茎数は少なく、葉数はやや多く、葉色は並の状況となっている。農業総合研究センターの幼穂調査によると、出穂期は概ね平年並と予想している。</p> <p>・ 「つや姫」の生育は、平年に比べ、草丈は長く、茎数はやや少なく、葉数は並、葉色はやや淡い状況となっている。出穂期は、概ね平年並と見込まれる。</p> <p>・ 「雪若丸」の生育は、指標値と比べ、草丈はやや長く、茎数・葉数はやや多く、葉色はやや淡くなっている。出穂期は、農業総合研究センター(山形市みのりが丘)で8月2日頃(平年8月3日)、水田農業研究所(鶴岡市藤島)で8月1日頃(平年8月2日)と、やや早い見込み。(山形県 7月20日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
	(生育)		<p>【7月20日現在】</p> <p>(由利) 水稲定点調査結果(2品種・移植8か所平均)によると、草丈72.3cmで平年より長く(平年比117%)、m<sup>2</sup>あたり茎数は140本で平年より少なく(平年比93%)となった。ほとんどのほ場で幼穂形成期に入っている。(7月22日付)</p> <p>(雄勝) 幼穂形成期を迎え、周回水管理と畦畔雑草などの防除が進められている。(7月15日付)</p> <p>(秋田県農林水産部)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形		<p>【7月15日現在】</p> <p>・ 平年比「はえぬき」の生育は、平年に比べ、草丈は長く、茎数は少なく、葉数はやや多く、葉色は並の状況となっている。農業総合研究センターの幼穂調査によると、出穂期は概ね平年並と予想している。</p> <p>・ 「つや姫」の生育は、平年に比べ、草丈は長く、茎数はやや少なく、葉数は並、葉色はやや淡い状況となっている。出穂期は、概ね平年並と見込まれる。</p> <p>・ 「雪若丸」の生育は、指標値と比べ、草丈はやや長く、茎数・葉数はやや多く、葉色はやや淡くなっている。出穂期は、農業総合研究センター(山形市みのりが丘)で8月2日頃(平年8月3日)、水田農業研究所(鶴岡市藤島)で8月1日頃(平年8月2日)と、やや早い見込み。(山形県 7月20日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
	(生育)		<p>【7月20日現在】</p> <p>(由利) 水稲定点調査結果(2品種・移植8か所平均)によると、草丈72.3cmで平年より長く(平年比117%)、m<sup>2</sup>あたり茎数は140本で平年より少なく(平年比93%)となった。ほとんどのほ場で幼穂形成期に入っている。(7月22日付)</p> <p>(雄勝) 幼穂形成期を迎え、周回水管理と畦畔雑草などの防除が進められている。(7月15日付)</p> <p>(秋田県農林水産部)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
福島		<p>【7月5日現在】(農業総合センターの作柄解析試験)</p> <p>・ 「コシヒカリ」は、草丈が本部(郡山市)、浜地域研究所(相馬市)で平年より長く、会津地域研究所(会津坂下町)でやや短くなっている。茎数は本部、会津地域研究所で平年並、浜地域研究所は平年並。葉色はすべての調査場所で平年より淡い傾向。主産葉数は、全ての調査場所で平年並。</p> <p>(福島県 7月11日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「実のつぶ」が増加していたが、飼料米への転換が増加していることから比率はやや低下している。</p>
	(生育)		<p>【7月5日現在】(農業総合センターの作柄解析試験)</p> <p>・ 「コシヒカリ」は、草丈が本部(郡山市)、浜地域研究所(相馬市)で平年より長く、会津地域研究所(会津坂下町)でやや短くなっている。茎数は本部、会津地域研究所で平年並、浜地域研究所は平年並。葉色はすべての調査場所で平年より淡い傾向。主産葉数は、全ての調査場所で平年並。</p> <p>(福島県 7月11日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が<math>10\%</math>の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・ 「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「実のつぶ」が増加していたが、飼料米への転換が増加していることから比率はやや低下している。</p>
茨城		<p>【7月11日現在、水戸市】幼穂長からの出穂期予測に基づく生育遅延(5月2日移植) ・ 「あきたこまち」で2日遅く、「ふくまるSL」2日遅く、「コシヒカリ」で4日遅い。(5月10日移植) ・ 「コシヒカリ」平年並。</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月14日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p>	<p>・ 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で近年、多様な多収米への作付け移行が進んでいる。</p>
	(生育)		<p>【7月15日現在、龍ヶ崎市】</p> <p>(4月2日移植) ・ 出穂期は、「あきたこまち」は7月11日で平年並、「ふくまるSL」は7月15日で平年並である。「コシヒカリ」は、今後気温が平年並に推移した場合、幼穂長から予測される出穂期は7月23日頃である。(5月6日移植) ・ 今後気温が平年並に推移した場合、幼穂長から予測される「コシヒカリ」の出穂期は、7月26日頃である。</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月20日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p>	<p>・ 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で近年、多様な多収米への作付け移行が進んでいる。</p>

<p>栃 木</p>	<p>【7月6・8日調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「早稲コシヒカリ」莖数が少なく、葉色が淡く、生育量（生育診断値）は平年を下回っている。草丈が平年よりやや高い。</li> <li>・コシヒカリ（5月4日移植、宇都宮市）の出穂期は7月26日頃の予測（平年より4日程度早い） （栃木県農政経営技術課 7月12日付）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。</li> </ul>
<p>千 葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月20日に移植した「コシヒカリ」は6月25日頃（平年より3日遅い）、「粒すけ」は6月24日頃（平年より3日遅い）に幼穂形成期を迎えた。</li> <li>・5月1日に移植した「コシヒカリ」は6月29日頃（平年より1日遅い）から幼穂形成期となる。莖数については回復傾向にあるが、引き続き県南地域に向かうほど平年よりやや少なくなっている。 （千葉県 7月1日付）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」及び「ふさかがね」を中心とする品種構成となっており、令和2年度から新品種「粒すけ」の本格栽培が開始</li> </ul>
<p>新 潟</p>	<p>【7月20日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」の生育は、県全体では指標値に比べ、草丈は「やや長い」、莖数と葉数の進みは「並」、葉色は「やや淡い」生育状況。草丈と葉色の地域差、ほ場差が大きく、葉色は前回調査からさらに低下している。</li> <li>・「新之助」の生育は、指標値に比べ、草丈及び莖数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや淡い」生育状況。草丈、葉数の地域差、ほ場差が大きくなっている。</li> <li>・「コシヒカリ」の出穂期は県全体の平均で平年より2日早い8月2日頃、「新之助」では平年より1日早い8月9日頃と見込まれる。 （新潟県 7月21日付）</li> </ul> <p>（生育）</p> <p>（岩 船）管内の「コシヒカリ」は、ほぼ幼穂形成期（出穂24日前）を迎えている。出穂期は平年並の見込みだが、ほ場によりばらつきが認められる。（村上農業普及指導センター 7月20日付）</p> <p>（魚 沼）出穂期は平年より1日程度早まる予想。（魚沼農業普及指導センター 7月21日付）</p> <p>（十日町）「こがねもち」や「コシヒカリ」の出穂期は、幼穂調査の結果から、前年と比べて2日程度 遅れる見込み。（十日町農業普及指導センター他 7月21日付）</p> <p>（佐 渡）「コシヒカリ」の出穂期は前回予想よりも遅れ、平年より3日程度早く、ほ場によりばらつきが大きくなっている。（佐渡農業普及指導センター 7月20日付）</p> <p>（新 潟）「コシヒカリ」の出穂期は平年比3日早い見込み。（新潟農業普及指導センター 7月20日付）</p> <p>（三 条）しばらく高温が続くため、出穂期は全品種で平年より2日程度早まると思われる。連休(5/5)補え「コシヒカリ」で出穂予想は7月31日。（三条農業普及指導センター 7月20日付）</p> <p>（柏 崎）「コシヒカリ」の出穂は平年より3日早い8月1日の見込み。（柏崎農業普及指導センター 7月20日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、<i>イネズミ</i>、斑点米かみの発生が「多い」と予想される。（農林水産省 7月20日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」及び「こしいふき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子實」「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品種「新之助」（晩生種）の作付拡大を推奨している。</li> </ul>
<p>富 山</p>	<p>【生育状況（7月19日）】</p> <p>「コシヒカリ」：平年に比べ、草丈はやや長く、莖数、葉色は並、葉齢は進んでいる。幼穂形成期は、平年に比べ3日早い7月8日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より3日早い7月30日頃と見込まれる。</p> <p>「てんたかく」：5月1日移植の「てんたかく」の出穂期は、7月14日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は8月18日頃と見込まれる。</p> <p>「てんこもり」：平年に比べ、草丈、莖数、葉色は並、葉齢は進んでいる。幼穂形成期は、平年に比べ1日早い7月11日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より1日早い8月3日頃と見込まれる。</p> <p>「富富富」：近年に比べ、草丈はやや長く、莖数はやや少なく、葉色は並、葉齢は進んでいる。幼穂形成期は、近年より3日早い7月10日となった。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年より3日早い8月1日頃と見込まれる。 （富山県 7月19日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、<i>イネズミ</i>、斑点米かみの発生が「多い」と予想される。（農林水産省 7月20日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温多湿でも品質が安定している「てんこもり」及び「てんたかく」県のトップブランドに位置づけている「富富富」が増加傾向にある。</li> </ul>
<p>石 川</p>	<p>【7月19日調査】【出穂期予想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早生品種の「ゆめみつほ」、「能登ひかり」は、全地域ですでに出穂期となっており、全体的には平年に比べ3～6日早く早くなっている。</li> <li>・「コシヒカリ」は、平年に比べ加賀地域で4～5日早く、能登地域では4～6日早く見込まれる。</li> <li>・「ひやくまん穀」は、加賀地域で近年に比べ4～5日早く、能登地域で3～4日早く見込まれる。 （石川県農林総合センター 7月21日付）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、<i>イネズミ</i>、斑点米かみの発生が「多い」と予想される。（農林水産省 7月20日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」及び「ゆめみつほ」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル品種の「ひやくまん穀」が増加傾向にある。</li> </ul>
<p>福 井</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「移植ハナエチゼン」の出穂期は、早い地域では7月10日頃、県全体では平年より3日程度早く、7月13日頃となった。</li> <li>・「コシヒカリ」や「あきさかり」の幼穂形成期も2～3日早く早くなっている。 （福井県 7月15日付）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、<i>イネズミ</i>、斑点米かみの発生が「多い」と予想される。（農林水産省 7月20日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお、新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。</li> </ul>
<p>長 野</p>	<p>【標高348m須坂市八重森の農業試験場における水稲生育状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼穂形成期は、「あきたこまち」で1日早く、「コシヒカリ」で1日遅かった。</li> </ul> <p>【標高1017m原村の原村試験場における水稲生育状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移植後50日の生育は、いずれの品種も主稈葉数は進み、草丈は長かった。莖数は「きりりん」「ゆめしなの」でやや少なく、「あきたこまち」が多かった。</li> <li>・幼穂形成期は、「きりりん」で2日遅く、「ゆめしなの」で3日、「あきたこまち」で2日早かった。 （長野県農業試験場 7月15日付）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種「風さやか」の導入を推進している。</li> </ul>
<p>滋 賀</p>	<p>【農業技術振興センター 水稲作況調査（6月30日時点）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作況調査（5月10日移植）では、「みずかがみ」、「コシヒカリ」とも、莖数は平年より少ないが、葉色は濃く推移している。</li> <li>・幼穂形成期は、「みずかがみ」は6月28日、「コシヒカリ」は7月2日と、両品種とも平年より1日早く、「みずかがみ」では7月22日頃に出穂期を迎える見込み。</li> <li>・県内ほ場では、移植日やほ場条件による生育に差は見られるものの、概ね平年並に幼穂形成期を迎えている。 （滋賀県農業技術振興センター 7月11日付）</li> </ul>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁大阪管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁大阪管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。</li> </ul>

兵 庫	<p>(7月1日現在)</p> <p>(県北) 「コシヒカリ」の草丈は平年より長く、茎数はかなり多く、葉齢の進展は平年並みである。遅植えでは、草丈は平年よりやや長く、茎数はかなり多く、葉齢の進展はやや早い。</p> <p>(生育) (県北以外) 葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い。</p> <p>(兵庫県 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。</p> <p>・品種構成の作付拡大を推進している。</p>
岡 山	<p>・極早生種の生育は概ね平年並である。</p> <p>(岡山県病害虫防除所 6月29日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病と縮葉枯病、斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。</p>
広 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病と縮葉枯病、斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>
愛 媛		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月、縮葉枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。</p>
高 知	<p>【早期稲(穂孕期～出穂期)生育:並】 ・草丈は低いものの、好天に恵まれたことから分けつ数が多く生育は順調である。 ・また、出穂時期が平年よりもやや早く、極早生品種で5日程度、「コシヒカリ」で3日程度早くになっている</p> <p>【普通期稲(分けつ期)生育:並】 ・降水量が少なく、一部の圃場で田植えが遅れた。水不足のため田植えをあきらめた圃場もある。 ・移植後の生育は概ね順調であるが、標高の高い圃場では朝晩の冷え込みにより生育がやや遅れ気味である</p> <p>(高知県病害虫防除所6月月報 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月、縮葉枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>
福 岡	<p>【7月15日現在】</p> <p>【早期水稲(夢つくし、コシヒカリ)】 ・4月中下旬植えの出穂期は7月7～13日程度で平年よりやや早い。稈長はやや長く、穂数は平年並～多い。</p> <p>【普通期水稲(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど)】 ・6月上旬植えの「夢つくし」は茎数が確保され、中干し時期を迎えている。 ・移植後、高温多湿で経過したため、生育は順調に進んでいるが、降水量が少なく、用水を確保しにくいほ場では生育量がやや小さい。</p> <p>(福岡県農林業総合試験場 7月21日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「元気つくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後新品種「夢つくし」への作付誘導が進められている。</p>
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの降き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。</p>
宮 崎	<p>【作物の生育状況(6月中旬)】</p> <p>(生育) ・早期水稲は穂ばらみ期、普通期水稲は移植前後(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月22日)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みそ358」への作付誘導が進められている。</p>
鹿 児 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月23日～8月22日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 7月20日付)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。</p>

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。  
注2：令和4年7月22日 16時時点での取り纏め。  
注3：更新箇所は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道農政部 7月22日)、  
農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月22日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月22日)、  
農作物生育状況調査の概要7月15日現在(北海道留萌振興局 7月22日)、  
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月22日)、  
水稲作況調査報告(7月20日現在の生育状況)(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 7月20日)、  
令和4年度水稲生育定期調査結果No.5(7月15日現在)(岩手県農業研究センター 7月19日)、  
仙台稲作情報2022(第6号)(宮城県仙台農業改良普及センター 7月21日)、  
仙南稲作情報(第5号)(宮城県大原農業改良普及センター 7月21日)、  
令和4年度産美里地区の稲作情報第7号(宮城県美里農業改良普及センター 7月21日)、  
こまちチャンネル<http://www.e-komachi.jp/>(7月22日閲覧)、  
米づくり技術情報No.9(山形県県産ブランド推進課 7月20日)、  
雪若丸技術情報No.7(山形県県産ブランド推進課 7月20日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月14日)、  
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月20日)、  
令和4(2022)年度水稲生育診断予測事業速報No.5(栃木県 7月12日)、  
水稲の生育と当面の対策第4報(千葉県農林水産部 7月1日)、  
水稲の生育と今後の管理対策(臨時第2号)(新潟県 7月21日)、  
R4岩船米生育速報(7月20日現在)(村上農業普及指導センター 7月20日)、  
FAX稲作情報No.8(三条農業普及指導センター 7月20日)、  
コンヒカリ生育情報第6号(魚沼農業改良普及センター 7月21日付)、  
令和4年度稲作生育速報No.6(佐渡農業普及指導センター 7月20日)、  
十日町地域稲作生育速報(十日町農業普及指導センターほか 7月21日)、  
稲作速報No.6(新潟農業普及指導センター 7月20日)、  
稲作生育速報第6号(柏崎農業普及指導センター 7月20日)、  
TACS情報第8号(富山県 7月19日)、  
令和4年度産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-8号)(石川県農林総合研究センター 7月21日)、  
稲作情報No.11(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月15日)、  
農業試験場水稲試験圃の生育状況(令和4年度)(長野県農業試験場 7月15日)、  
水稲高標高試験圃の生育状況(令和4年度)(長野県農業試験場 7月15日)、  
令和4年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月11日)、  
令和4年度兵庫県農業気象技術情報No.2(7月情報)(兵庫県 7月5日)、  
令和4年度病害虫発生予報第4号(岡山県 6月29日)、  
病害虫発生予報情報について(高知県病害虫防除所 7月5日)、  
福岡県の主な農産物の生産状況(専技情報より抜粋)令和4年7月15日現在(福岡県農林業総合試験場 7月21日)、  
令和4年度病害虫発生予報第2号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月22日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(7月21日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(7月21日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(7月21日気象庁)、  
北陸地方こう1か月の天候の見通し(7月21日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(7月21日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(7月21日広島地方気象台)、  
四国地方こう1か月の天候の見通し(7月21日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(7月21日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(7月21日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(6月21日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(6月21日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(6月21日気象庁)、  
北陸地方こう3か月の天候の見通し(6月21日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(6月21日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(6月21日広島地方気象台)、  
四国地方こう3か月の天候の見通し(6月21日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(6月21日福岡管区気象台)、  
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(6月21日鹿児島地方気象台)、

高温に関する早期天候情報(北海道地方)(7月21日札幌管区気象台)

令和4年度 病害虫発生予報第5号(農林水産省 7月20日)、  
令和4年度産水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月16日)